

## 令和7年度 第28回「白山市ミライ会議」会議概要

※会話の順番を入れ替えたりまとめたりしています。  
※制度などの説明は、会議開催時点のものです。

日時:令和7年11月27日(木)19:00～

場所:旭コミュニティセンター

参加者:16名



### ◆ 事業は各種団体を中心にプロジェクト型でやっています

(参加者)

昭和24年の公民館設置条例から70年余り公民館が続いてきました。当初は部会制で、総務部、青年教育部(今の壮年会)、体育厚生部(今のスポーツ協会)、青少年教育部(昔の青年団)、婦人教育部(婦人会)でやっていました。

ところが青年団や婦人会がなくなり、新しい団体が増えたことで、部会制ではなく各種団体の活動を担保しながらプロジェクト型で進めてきました。

少し言いにくいのですが、6、7年前に提案されたコミュニティセンター化には、最後まで反対していました。大学の先生の話聞いて、コミセン化は過疎対策だという認識を持ちましたが、旭地区は人口が増えつつあるからです。

しかし昨年からは全地区一斉スタートとなり、各種団体の活動担保と公民館事業を継承していくことで進めてきました。現在もプロジェクト型で、運動会ならスポーツ協会や交通安全協会、夏祭りなら各種団体や推進隊、文化展は全団体の協力で行っています。今のところ旭地区に関しては特段問題なく活動していると思っています。

ただ今後の課題は、市が進めている自主防災についてです。他地区より遅れていると思われる。各町内会に組織はありますが、形だけになっているのではないのでしょうか。

◆ 自主防災に関しては市主導で縦割りの組織を作っていただきたいと思います

◆ 町内会ごとに自衛消防の仕組みがあり、ポンプの点検などを行っています

(市長)

自主防災の件ですが、28 地区回ってお聞きしていますと、状況はさまざまです。やはり少子高齢化の地域はなかなか難しく、逆に盛んな地域もありバラバラになっています。

確かにバラバラすぎると地域格差が生まれてしまうので、危機管理課からも自主防災計画の作成について支援をしたり話をしたりと進めています。旭地区ではまだそこまでできていないということでしょうか。消防団が関わっている地域もありますが、消防団との連携はいかがですか。

(参加者)

事業としての連携はありませんが、手伝いの形で協力してもらっています。市内で、地区としての自主防災組織があるのは 28 地区中 13 地区しかなく、半分にも満たないそうです。市長はいつも「平等に」と言いますが、できている所とそうでない所があります。

先ほど言ったように、社会福祉協議会のような縦割りで、市主導で町内会へ働きかけてほしいです。町内会の組織自体は形だけでもできていると思うので、そこへ働きかけてもらえれば、私たち地域コミュニティ組織としても動きやすくなります。

(市長)

確かに地区ごとの自主防災組織ができていない地区はあります。ただ、組織はなくても防災訓練や備えは結構やっていて、町内会ごとに実施しているところもあります。ここも全くやっていないわけではないと思いますが、町内会ごとで何かしていますか。

(参加者)

町内会では、もともと自衛消防があるので、それを引き継ぐ形で火の始末や避難場所の啓発などはやっていると思います。ポンプ点検で水を上げる活動もしていますが、取り組みは町内会ごとにバラバラですね。

(市長)

いわゆる自警団のことですね。私も自分の地区で自警団をやっていて、毎月ポンプ点検や防火水槽の掃除などをしていました。

ただ防災訓練となると、備蓄品の確認や避難所への移動など、さらに踏み込んだ内容になります。やれている所と、少子高齢化で人がおらずできない所があります。市としてできていない所も含めて、その辺はしっかりやっていきたいと思っています。

## ◆ 大雨の際は屋越川の氾濫で浸水被害があり、対策が必要です

(参加者)

八田での豪雨災害のことですが、8月のゲリラ豪雨で町内が水没し、これまでも毎年床下浸水が発生しています。市役所の方も来てくれましたが、旭工業団地の二期工事で工場が建つと、雨水がさらに屋越川に流れ込み、水量が増える懸念があります。

昨年、川のカーブ部分をブロックでかさ上げしてもらいましたが、それでも水が溢れ、川の欄干を越えて市道まで冠水しました。自衛消防もおぼつかない中、土嚢を置くなどの対策を市で考えてもらえるのでしょうか。

(市長)

先日から、八田を含め数件の要望を受けています。8月4日の氾濫時にも、原因究明と対応を指示しました。屋越川は県が改修してきた経緯がありますが、町内のカーブ部分や暗渠、取水口が狭まっている箇所など、川の流れ自体を変える必要があるかもしれません。

ただ広げるだけで解決するのか、七ヶ用水土地改良区、市、県、誰が管理するのかという話も出ていましたが、困っている住民には関係ありません。浸水している家がある以上、管理区分に関わらず一番良い方法を検討するよう指示し、確認を進めています。市は関係ありませんよという立場ではありません。

## ◆ 八田農村公園(オニユリの里)の看板が傷んでおり、白山の眺望も遮られています

(参加者)

八田町の八田農村公園(オニユリの里)に、ジオパークの大きな看板があります。小高い丘の上に白山連峰の写真付き看板と長椅子があるのですが、毎年100本ほど植栽をしているので、木が生い茂ってきていて木が邪魔で白山連峰は見えません。

以前、海岸にあった見晴らし台を撤去した後にできたので、その代わりとして作ったのかなと思います。しかし、その椅子から90度左を見ると立山連峰は綺麗に見えます。白山が見えず立山が見える場所にその看板があるのはどうかと思うので、少し整備し直してほしいです。

できれば海岸の方に、日本海を見渡せる見晴らし台をもう一度設置してもらえればよいと思います。

(市長)

日本ジオパークの認定時に市内各地に設置された白山やその他の見どころを紹介する「ビュースポット看板」と思われます。他の白山ビュースポットと異なり、海際の松の木の間から白山が見られる場所として、近くのオニユリとともに紹介しています。松が伸びて視界を遮っているのでは

ば、森林対策課で松の保護・整備を実施していますので、ご相談いただければと思います。

## ◆ ジオパークのスポットとして竹松の埋没林に注目していただきたいです

(参加者)

ジオパーク関連でお願いがあります。倉部竹松海岸の沖にある埋没林もジオパークで取り上げてほしいです。数年前に文化課へ既存の資料について尋ねた際、「専門的すぎて一般には分からない」と言われ諦めていたのですが、山からの伏流水によって埋没林が存在しているなら、それもジオパークの一つではないでしょうか。

昔の人は地引網をする際、山や松の木を目印にして、網が引っかからないよう位置を確認していたそうです。その中で珪化木が引っかかって引き上げたことがあり、それが倉部の神社の社務所入口に立ててあります。長さ1メートル強、幅60センチの立派なものです。

鶴来の林コミセンにも小さな珪化木があり、ジオパーク関係者が説明していますが、倉部の神社にはもっと大きなものがありますし、海底には他にも珪化木が沈んでいると思います。これを宣伝すれば見に来る人も増え、地域の役に立つと思うので、埋没林と珪化木のことをもう少しPRしてほしいです。

(市長)

どちらもジオパークで大事な要素です。美川地区では湧水を飲み水などに使っていますが、昔は八田からこっち側でもっと水が湧いていて、トミヨという魚もいたと聞いています。今は美川にしかいませんが、元々は八田から倉部あたりにも多くいたそうです。

(参加者)

田んぼの用水のどこから湧水があったけれども、それが出なくなった。水を汲み上げている会社も多いですし、融雪用にも使っています。場所によって掘る深さが違うのであまり影響はないと思いますが、海岸に湧いているのはそうかもしれません。

以前ジオパーク担当者に埋没林のことを提案した時、「目に見えないものだから難しい」と言われた記憶があります。富山には埋没林博物館もありますし、検討してほしいです。

(市長)

貴重な情報をありがとうございます。

埋没林については、松任沖海底林として紹介してきています。今後も、温暖化など気候変動とも関係する話ですので、積極的に発信していければと考えています。

珪化木は、林コミュニティセンターのものは地区内の曾谷(市指定天然記念物 曾谷の珪化木産地)のものであると考えられています。

倉部の珪化木は海底から引き揚げられたということなので、どこかから流されてきたのでしょうか。研究としては難しいかもしれませんが、白山手取川ジオパークのテーマのひとつである「石の旅」のストーリーとしては大変面白いですね。ジオパーク・エコパーク推進課、文化課に共有しておきます。

## ◆ めぐーるの運転手確保と利用者増に向けての提案です

(参加者)

市全体が良くなれば旭地区も良くなるという視点で提案します。コミュニティバス「めぐーる」のドライバー不足と、消防士のセカンドキャリア形成を同時に解決する策です。

それは、白山市とコミュニティバスを運行するバス会社が協定を結び、定年退職する消防士が希望すればバス運転手として円滑に転籍できる仕組みを作ることです。

三重県桑名市などでは既に成功事例があり、法的・制度的なハードルは低いです。桑名市では退職 2 年前から準備を進めているそうです。

コスト面でも、バス会社には免許取得費用を補助する制度があります。消防士は大型一種免許を持っている人が多いので、二種免許取得の負担も少なく、即戦力になります。市の財政負担もほぼありません。

また、消防士は責任感や安全意識が高く、地理にも詳しいので、バスの安全性も高まります。私自身、料亭の送迎バスを運転している元消防士の方にお会いしたことがあり、セカンドキャリアとしての適性はすでに実証されていると感じています。

さらに、車内アナウンスを地域の小学生に担当してもらうのはどうでしょうか。録音は学校で可能ですし、費用もかかりません。子どもたちの元気な声は高齢者にとっても楽しみになり、利用促進や地域愛の醸成につながります。

消防士という安全のプロと、未来を担う子どもたちの声が出る、この連携を白山市独自モデルとして提案したいのですが、いかがでしょうか。

(市長)

ありがとうございます。2 点の提案をいただきました。

まず、めぐーるの運転手への消防士 OB 活用ですね。実は白山市では様々な OB を活用していて、めぐーるには市役所 OB が運転手として入っています。他にも危機管理課には自衛隊 OB、地域安全課には現役警察官に入ってもらおうなど、できるだけ OB や現役の方に入ってもらっています。

また、国との人事交流も行っていて、様々な組織で活躍していた人を活用することは進めています。今後の活用については参考にします。

アナウンスについては、子どもの声というのは確かに良いと思いますが、まずはどなたにでも聞き取りやすいことが重要です。協賛企業の広告アナウンスもありますので、慎重に検討したいと思います。

## ◆ 子ども食堂の運営を始めたいので、相談に乗ってください

(参加者)

このコミュニティセンターの中にキッチンができました。ずっと社会福祉協議会の方で願望だった子ども食堂を作りたいです。ただ、ここに来るには高架を渡らなければいけない心配もあります。

長期休みになると、給食がなくなり子どもが栄養失調になるリスクがあります。昔から母親が食事代を置いて仕事に行く家庭はありましたが、お金を渡されても、お菓子など好きなものを買ってしまえば栄養バランスが崩れます。一番バランスがいいのは給食ですから。

そこで、料理好きだけど作る機会がないおばあちゃんたちを巻き込みたいです。先日、あるおばあちゃんの太巻きを食べたらすごく美味しくて。「一人だと作る機会がない、きっかけがないと面倒なことはしない」と言っていたので、そういう方やコミセン職員も巻き込んでやりたいと思っています。

ただ、提案する私が高齢者なので、若い人に引き継いでもらえたらと思うのですが、その場合の補助やサポートはあるのでしょうか。

(市長)

サポートはありますので、担当の子育て支援課に相談してください。子ども食堂はいろいろな場所でやっていて、寄付をもとに千代野や蕪城などでも実施しています。食事だけでなく、夏休みの宿題を見るなど学習支援もしています。私も元教員なので、ボランティアで子どもの宿題を見たりしていました。

他地区でも実施している例がありますが、コミセンとしてやるのか、団体としてやるのか、実施主体については地区で話し合ってください。

長期休みに栄養満点の給食がなくなる問題は、私も学校にいたのでよく分かります。今は給食センターで作ることが多くなりましたが、白山市は各学校での調理を目指しています。子ども食堂も応援したいので、ぜひ相談してください。

(参加者)

お年寄りと子どもが一緒になってやっていきたいです。高齢者と接していない子どもも多いです

し、「口も手も出す」というおばあちゃんを巻き込めればいいなど。そうすれば民生委員の見回りや情報共有にも役立ちます。

家庭菜園で余った野菜を分けてもらうなどして、地域を巻き込んでいきたいです。会長が一番の助けになってくれると思うので、困ったことがあればみんなで市に相談に行きます。

#### ◆ 抜け道として集落内を通行する車が多く、子どもの交通安全が心配です

(市長)

こちらの人口は合併時から見ても横ばいで、減少していませんね。各種団体がしっかり活動しているからだと思います。

(参加者)

旭地区では各団体が協力し合い、同じ方向を向いて動いているので、順調だと理解しています。昔は農業中心で、市内でも珍しい畑作地帯です。加えて旭工業団地もあり、商工農のバランスが取れて発展してきました。白山インターも近く交通の便が良いので、人口も減らずに横ばいなのだと思います。

(市長)

道路の話ですが、金沢外環状道路海側幹線の本線がまだできていません。本線ができれば渋滞も変わると思い要望していますが、旭地区の渋滞課題への影響はどうでしょうか。

(参加者)

本線ができれば通過交通がなくなり、若干は減ると思います。ただ、ここは工業団地があるので、朝夕の通勤時に抜け道として入ってくる車が多く、高速の下など決まった場所で渋滞が起きているのが現状です。

(参加者)

海側幹線の渋滞を避けて、車が集落の中に入ってきます。そこは通学路なので、警察に「通学時間帯だけ通行止めにはできないか」とお願いに行きましたが、できませんと言われました。減速の規制も断られました。

昨年、雪の日に子どもたちが風に飛ばされないよう、昔のように綱を持って固まって登校したこともあります。それほど危険なのに、要望しても、事故が起きて人が死なないと信号機は付かないの

かと思うくらいです。市役所ではなく警察の話ですけれども。

(市長)

地区からの要望もいただいておりますし、市としても警察に要望書を提出しています。今後も確認していきたいと思えます。なお、相木交差点までの区間の道路整備については、令和10年度完成を目標に進めているところです。

子どもの安全、通学路に関しては、「白山市通学路安全プログラム」というものがあります。市や県の道路管理者や白山警察署、学校関係者などの関係機関で、点検を行い、必要な施策や改善を進めています。

もし該当箇所について要望がありましたら、町内会やPTAを通じて、学校へ要望書の提出をしていただければと思います。

(参加者)

地区懇談会では話題になりますが、結局嘆願に行くのは民生委員です。学校からは細かい内容までは出ていないのでしょう。集落の中を車が減速せずに走っているのは、実際に住んでいる人や、子どもと歩いたお母さんでないと分かりません。

あるお母さんが一緒に歩いて初めて抜け道の車が多いことに気づき、宮永市町の方から地区懇談会に話が上がって警察へ行きました。後日警察から電話があり、「今のところは難しいが、4車線化の時には信号は付くであろう」という回答でした。

(市長)

本日は、さまざまなお話しをお聞きし、旭地区の日頃からの取り組み、各団体がしっかり活動していること、そして持続可能なコミュニティのために工夫や苦勞をされていることがよく分かりました。今後ともよろしく願います。

今日いただいた宿題については対応を検討し、ご意見・ご提言は今後の参考にさせていただきます。本日はありがとうございました。